

2010年度総会議事録

日時：2010年5月24日（月）13時30分～14時40分
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
 （東京都渋谷区）

参加者数：通常会員の会場出席者76名，総会参加票のうち有効票による出席者551名，合計627名。（通常会員現在総数1,093名（2010年4月9日現在））

総会成立の要件：通常会員現在総数の過半数以上の出席がなければ成立しない。ただし，総会に出席できない通常会員で，当該議事につき他の出席通常会員に表決を委任した者，および書面によって決議に参加した者は出席とみなす。（定款第38条）

議 事

1. 開会

石田理事より総会成立の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に羽鳥光彦会員（気象庁）を選出した。

3. 理事長挨拶

今年度の春季大会の開催に尽力いただいた気象庁，東京管区気象台の会員，大会実行委員会，講演企画委員会の皆様にお礼申し上げる。あいにく今年度の春季大会は地球惑星科学連合2010年大会と同時開催になってしまったため，地球惑星科学連合には気象に関連するセッションが春季大会と重ならないように調整いただいた。やや発表件数は少ないものの，当日の参加人数はそれほど変わっていない。

社会に対しての働きかけとして声明等の意見を発する基準を整備したところであり，昨年度から行政刷新会議の事業仕分けについての要請，共同利用・共同研究拠点の認定についての要請，宇宙基本計画における気象学・大気科学に関する振興についての要請を発してきた。今後も積極的に行っていききたい。

日本学術会議ではIPCC問題について検討を行っているところであり，推移を見守っている。また，日本学術会議は学術の大型施設計画・大規模研究計画について調査を行い，提言を発表した。提言の内容についてはWebから見る事ができる。大気海洋・環境科学関連では12件の提案があったが全ての計画が拾い上げられてはいない。5月には文部科学省の作業部会でヒアリングが行われ，マスタープランとして独り歩きする恐れがある。地球惑星科学委

員会でもう一度アンケートがある予定なので，漏れがない等確認いただいた上でご意見をお願いする。

気象集誌とSOLAについて論文賞を新たに創設した。優れた論文を選定するものであり，今年1月から始まっている。また，気象集誌では電子投稿システムの運用が開始され，SOLAはWeb of Scienceに登載されるようになり，ジャーナルのサイテーションの向上も期待できると考えられる。今後も気象集誌・SOLAへの積極的な投稿をお願いする。

若手研究者問題については社会的にも認識されつつあるが，相変わらず厳しい状況に変わりはない。学会としては，講演企画委員会でキャリアエクスプローラロゴの導入を行うなど，できることからやっていく。本大会期間中にIAMAS小委員会と共催で行う第2回若手研究者問題に関する検討会では，博士号取得者の民間企業への就職をテーマとしており，民間企業の方にも参加いただく予定である。

総会議案の参加票ではいろいろとご意見をいただいた。真摯に受け止めて今後の運営に役立てていきたい。その中で会員の減少についてご意見があった。数年前から議論になっており，監査報告でも指摘されているところである。現状の分析や対策について議論中であり，早急に示したいと考えている。

木本昌秀会員が「高分解能気候システムモデルを用いた地球温暖化と降水量変動予測に関する研究」で第17回日産科学賞を受賞された。推薦にあたって努力いただいた方々にお礼を申し上げる。

最後に春季大会の開催に当たって尽力いただいた皆様に改めてお礼を申し上げる。

4. 表彰

(1) 学会賞

学会賞候補者推薦委員会担当の中島理事が選定理由を説明し，新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と，受賞対象となった業績は以下の通り。

藤部文昭（気象研究所）

異常気象・顕著現象の長期変動に関する解析的・統計的研究

(2) 藤原賞

藤原賞候補者推薦委員会担当の藤谷理事が選定理由を説明し，新野理事長から受賞者に賞状並び

に賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

岩坂泰信（名古屋大学名誉教授、金沢大学フロンティアサイエンス機構）

エアロゾルならびに黄砂に関する研究への貢献
近藤洋輝（独立行政法人海洋研究開発機構
IPCC 貢献地球環境予測プロジェクト）

わが国における地球温暖化研究の推進への貢献

5. 2010年度総会議案審議

(1) 提案説明

議案1：支部会計の本部会計への統合に伴う2008年度収支決算報告の修正について

中本理事から、2009年7月22日に実施された文部科学省の実地検査の指摘事項等を踏まえて、2008年度収支決算報告を修正することが説明された。

議案2：2009年度事業報告

石田理事から、会員数の動向、機関誌等の刊行、大会の開催、研究業績の表彰、支部活動、普及活動等の事業報告があった。

議案3：2009年度収支決算報告

中本理事から、財産目録総括表や収支計算書等に基づき決算報告があった。

議案4：2009年度監査報告

北川監事から、帳簿類の管理、収支、会員数の動向等に関する監査結果が報告された。

2009年度の活動について研究成果の公表活動、国際的な学術交流、普及啓蒙活動、学会としての主張を積極的に公表する取り組み等が進んでいるとの評価を受けた。しかし、会員数の減少に伴い会費収入が減少しており、現行のペースで会員数が減少すると遠からず財政面において支障がでるだけでなく、学会活動の低下につながることへの懸念が指摘された。

議案5：日本気象学会第36期役員選任について

新野理事長から、第36期役員候補者選挙における当選者並びに当選者の推薦による理事候補者、地方区理事当選者の辞任に伴う追加推薦者、監事の欠員補充について説明があった。候補者の一覧は次の通り。

・役員候補者選挙において当選した候補者

(1) 全国区・理事

佐藤 薫, 近藤 豊, 余田 成男, 新野 宏,

安成 哲三, 塩谷 雅人, 藤谷 徳之助,
中島 映至, 田中 博

(2) 地方区・理事

(北海道支部)

藤吉 康志, 佐々木 洋

(東北支部)

岩崎 俊樹, 鈴木 和明

(関東支部)

藤部 文昭, 三上 正男

(中部支部)

中村 健治, 牧原 康隆

(関西支部)

里田 弘志, 竹見 哲也

(九州支部)

田中 省吾, 廣岡 俊彦

(沖縄支部)

赤枝 健治

(3) 全国区・監事

岡本 幸三

・理事候補者選挙当選者からの推薦による理事候補者（細則第6条第9項の規定に基づく）

石田 純一, 石原 正仁, 佐藤 正樹, 中村 尚,
中本 能久

・理事候補者の辞任に伴う追加推薦者（細則第6条第11項の規定に基づく）

(辞任理事候補者)

佐々木 洋, 鈴木 和明, 牧原 康隆,

里田 弘志, 赤枝 健治

(後任理事候補者)

黒良 龍太, 橋本 徹夫, 高瀬 邦夫,

大林 正典, 佐々木 喜一

・監事の欠員補充について（細則第6条第11項の規定に基づく）

高木 征弘

議案6：2010年度事業計画（案）

石田理事から、従来の事業に加え、新公益法人制度の下で2011年度に公益社団法人の認定申請を行うことを目標に必要な準備を始めることが提案された。

議案7：2010年度収支予算（案）

中本理事から、日中韓共催国際会議費用準備金及び事務局移転費用準備金を新設すること、支部強化基金は独自活動を計画した4支部に配算すること等が説明された。

6. 採択

議案1～7について、有効総会参加票（下記註）も含め以下のように賛成多数で承認された。

議案 1：賛成 626, 反対 0, 保留 1

議案 2：賛成 627, 反対 0, 保留 0

議案 3：賛成 626, 反対 0, 保留 1

議案 4：賛成 627, 反対 0, 保留 0

議案 5：賛成 621, 反対 1, 保留 5

議案 6：賛成 625, 反対 1, 保留 1

議案 7：賛成 624, 反対 1, 保留 2

〔註〕有効総会参加票（551票）で全ての議案に賛成の301票及び議長が全ての議案に賛成したため議長委任分の216票を賛成に繰り入れた。議案毎の賛成・反対・保留の表明は34票。

7. 議事録署名人の指名

議事録署名人に限 健一会員（気象庁）と河野耕平会員（同）を指名したところ、異議なく承認された。

8. 議長解任

羽鳥議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

9. 閉会

石田理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成22年 6月23日

総会議長 羽鳥 光彦 印

出席者代表 隈 健一 印

出席者代表 河野 耕平 印